

Theme 4 環境への取り組み 「地球が微笑むものづくり」を追い求めます

地球環境 低炭素社会・循環型社会・自然共生社会の実現を目指します

より詳しい情報は、Webサイトをご覧ください。
CSR情報 > テーマ4 環境への取り組み
■環境経営の推進

環境経営の推進

「環境ビジョン2020」の制定

当社は、グループミッション「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“Global Kawasaki”」のもとで環境ビジョンの2020年のあるべき姿を目指して、「環境ビジョン2020」を2010年度に制定しました。

そのビジョンの実現を目指し、3ヵ年ごとに定める「環境経営活動基本計画」は、環境ビジョン2020の制定に合わせて2010年度からの3ヵ年を第7次環境経営活動基本計画期間として目標を設定し年度ごとの重点施策を決めて活動しています。

環境憲章の環境基本理念に基づき、環境ビジョン2020では「低炭素社会の実現」「循環型社会の実現」「自然共生社会の実現」という3つの社会の実現と、これらを実現するための土台と

なる「環境マネジメントシステムの確立」の4項目を基本指針とし、事業経営と環境経営活動の一体化を図りながら持続可能な社会への貢献を目指していきます。

《環境ビジョン2020》

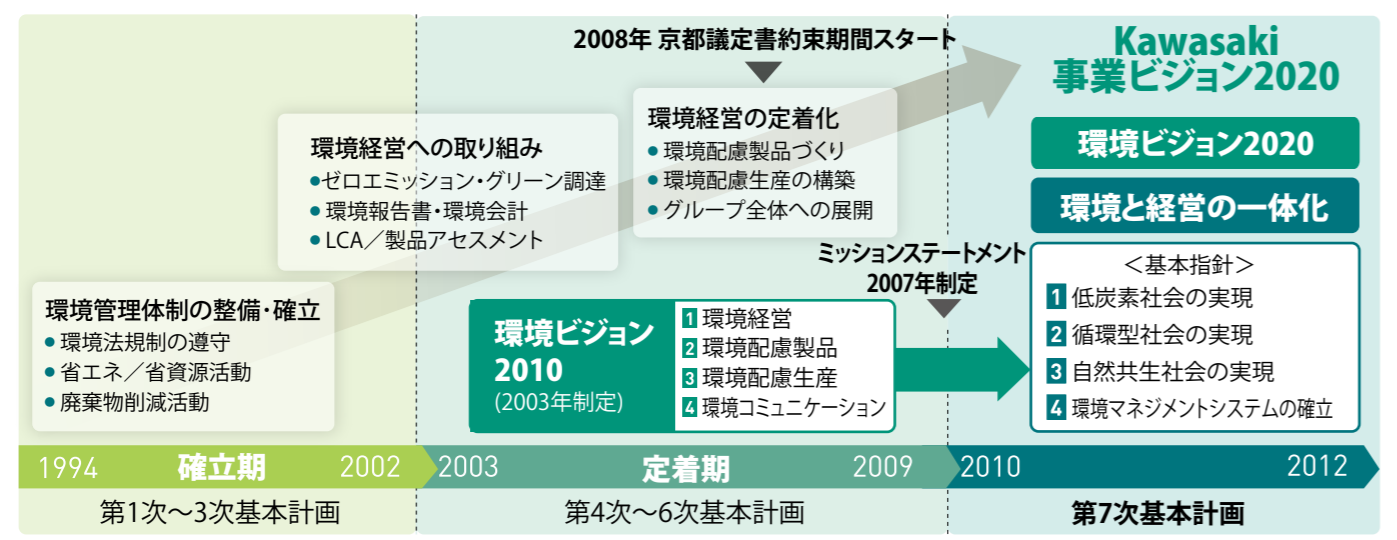
3つの切り口から持続可能な社会の実現に向けて

低炭素社会の実現	エネルギーを無駄なく利用する製品とものづくりで、グローバルに地球温暖化防止に貢献
循環型社会の実現	資源を無駄なく利用する製品とものづくりで、有限な資源を大切に活かし切り、循環させる
自然共生社会の実現	地球環境に調和した製品とものづくりで、環境負荷を下げ、生態系の保全に貢献

環境経営の基盤づくり

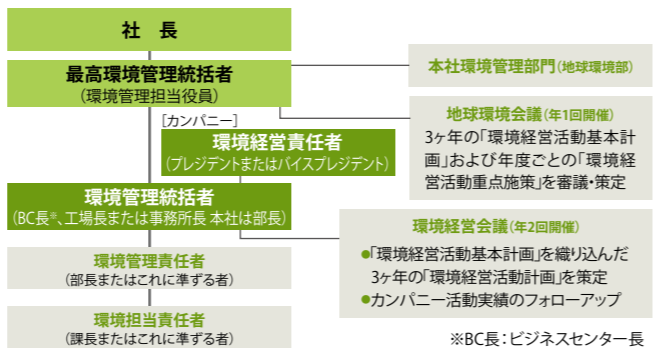
環境マネジメントシステムの確立	環境ビジョン2020を実現する環境経営の基盤づくり
------------------------	---------------------------

環境経営の流れ



環境管理組織

当社は、最高環境管理統括者(環境管理担当役員)を選任するとともに、最高環境管理統括者を議長とする「地球環境会議」において、さまざまな重要事項を審議・策定しています。また、策定された環境経営活動基本計画をそれぞれの事業部門が主体的に活動に展開できるよう、各カンパニーの組織に対応して、環境経営責任者、環境管理統括者、環境管理責任者、環境担当責任者を選任し、全員が一丸となって環境への取り組みを推進できる組織体制を確立しています。



「環境ビジョン2020」の実現に向けて

環境ビジョン2020のスタートとなる第7次環境経営活動基本計画(2010～2012年度)では、「低炭素社会の実現」「循環型

社会の実現」「自然共生社会の実現」および環境経営の基盤となる「環境マネジメントシステムの確立」の4項目で全社目標を定め、ビジョンの実現に向けて取り組んでいます。

第7次環境経営活動基本計画 (2010～2012)	2011年度の重点施策
<p>低炭素社会の実現</p> <p>エネルギーを無駄なく利用する製品とものづくりで、グローバルに地球温暖化防止に貢献</p> <p>(1) 当社の地球温暖化対策</p> <p>A) 自らの生産活動に伴うCO₂排出量の削減・全社省エネ活動を推進するためCO₂見える化・検証の仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全社CO₂削減対策(省エネ設備投資) ●特定荷主として物流における省エネ推進 <p>B) 当社の製品・技術による排出量獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ●当社の製品・技術による国内外の排出量獲得(CDM等)の仕組みづくり <p>C) 取引市場からの排出量購入</p> <ul style="list-style-type: none"> ●CO₂削減目標未達成の場合の措置 <p>D) 寄付行為等による排出量獲得</p> <p>全社目標 2007年度を基準とし、2012年度までに2008～2012年度の平均排出原単位(=CO₂排出量/売上高)10%削減</p>	<p>1. 当社の地球温暖化対策</p> <p>A) 自らの生産活動に伴うCO₂排出量の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ●CO₂の見える化システムの導入推進(改正省エネ法への対応含む) ●パイロット工場のシステム運用と省エネノウハウの蓄積・社内発信 ●全社集計システム運用と見える化システムの工場展開 ●全社CO₂削減対策(省エネ設備の更新) ●省エネ設備(工場・事務所照明、省エネインバータ)の導入と省エネ効果の検証 ●各部門の省エネ活動の強化と計画のフォロー・全社的な省エネ推進体制の構築 <p>B) 当社の製品・技術による排出量獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新たな地球温暖化対策制度への対応検討 <p>C) 取引市場からの排出量購入</p> <ul style="list-style-type: none"> ●削減目標未達成成分の購入費用の負担検討 <p>D) 寄付行為等による排出量獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ●森林保全活動、グリーン電力の活用等
<p>循環型社会の実現</p> <p>資源を無駄なく利用する製品とものづくりで、有限な資源を大切に活かし切り、循環させる</p> <p>(1) 廃棄物総排出量削減に向けた取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 省資源、3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進 ② ゼロエミッション活動、リサイクル率の向上 <p>全社目標 2002年度を基準とし、2012年度までに排出原単位(=廃棄物総排出量/売上高)を12%削減、ゼロエミッションの維持</p> <p>(2) PCB廃棄物の適正処理計画の策定とフォロー</p>	<p>1. 廃棄物総排出量削減に向けた取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 廃棄物の排出量上位3物質(金属くず・廃油・木くず等)の削減活動 2) 省資源、3Rの推進 3) ゼロエミッションの維持・向上 4) 電子マニフェスト導入の推進 5) 廃棄物管理システムの構築と運用(電子マニフェストの組み込み) <p>2. PCB廃棄物の適正処理計画の策定とフォロー</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) JESCO委託処理のフォロー 2) 低濃度PCB含有機器の処理動向と台数のフォロー
<p>自然共生社会の実現</p> <p>地球環境に調和した製品とものづくりで、環境負荷を下げ、生態系の保全に貢献</p> <p>(1) 化学物質削減に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ●削減目標設定と活動推進(設計・生産両面からの取り組み) <p>全社目標 管理対象の化学物質について、2003～2005年度平均を基準とし、2010～2012年度の削減目標を設定</p> <p>(2) 製品・技術を通じた環境貢献</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 製品ライフサイクルでの環境負荷低減に向けた取り組み ●製品ライフサイクルアセスメント実施に向けた対応基盤の整備 ② 製品のグリーン化・製品に対する環境配慮の推進 <p>(3) 生物多様性への影響低減と保全</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 生物多様性の行動指針の策定と保全の推進 	<p>1. 化学物質削減に向けた取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 第7次計画における削減対策強化部門の重点フォロー ●使用状況を把握・整理し、課題を明確化して目標設定低VOC塗料や重金属フリー塗料・表面処理技術の導入推進とフォロー <p>2. 製品・技術を通じた環境貢献</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 製品ライフサイクルでの環境負荷低減に向けた取り組み ●エネルギーや輸送に関連する製品を対象にCO₂削減効果評価 ●ライフサイクルアセスメントの評価手法の検討 ●製品・技術を通じた環境貢献の情報発信 2) 製品のグリーン化 ●化学物質関連の法規制対応の徹底(RoHS指令、REACH規則等) ●グリーン製品における基準設定および売上高の向上 <p>3. 生物多様性保全への取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 全社取り組み方針の策定およびフォロー
<p>環境マネジメントシステム(EMS)の確立</p> <p>環境ビジョン2020を実現する環境経営の基盤づくり</p> <p>(1) 川崎重工グループにおけるEMSの構築</p> <p>全社目標 2012年度までに国内および海外重要生産拠点である連結子会社のEMSの構築を完了</p> <p>(2) 環境法令遵守の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ●環境事故等の再発防止 <p>(3) 環境コミュニケーションの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●すべてのステークホルダーとの環境対話の推進 	<p>1. 川崎重工グループにおけるEMSの構築</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 国内および海外連結子会社のEMS構築計画の策定と推進 ●2011年度は国内5社、海外5社のEMS構築 2) グループ全体の主要環境データ収集(エネルギー、廃棄物、化学物質等) ●エネルギー/CO₂排出量のグループ企業からの情報収集と社外への発信 ●2011年度は国内46社、海外24社の環境データの収集 <p>2. 環境法令等遵守の徹底</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 全社環境法規遵守状況調査委員会の活動 2) 環境法令改定等のフォローと全社展開 <p>3. 環境コミュニケーションの推進</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 川崎重工グループ従業員への環境啓発活動(環境教育) 2) 社内外への環境情報の発信(環境ニュース発刊、CSR報告書の発刊支援等) 3) 企業の森づくり活動

Theme 4 「地球が微笑むものづくり」を追い求めます